財団法人石川文化事業財団　平成 21（2009）年度事業報告

第 1 章　法人の概況

1－1．法人の沿革

・昭和 16 年 9 月 10 日、石川武美が図書館設立を目的として「財団法人文化事業報国会」を創設。
・昭和 22 年 11 月 28 日、法人名を「財団法人文化事業協会」に改称し、12 月 1 日、駿河台 2 丁目に女性専用図書館として「お茶の水図書館」を開館。
・昭和 35 年 3 月、法人名を「財団法人お茶の水図書館」と改称。
・昭和 40 年 12 月、駿河台 1 丁目に移転。
・昭和 53 年 3 月、法人名を「財団法人石川文化事業財団」と改称し、図書館事業部に加えて、文化事業部（昭和 57 年）、顕彰事業部（昭和 62 年）、生活文化研究所（平成 3 年）による 4 事業を展開。その後、平成 13 年までに図書館事業を中心とする 1 事業部に統合。
・平成 14 年 11 月、創設時の駿河台 2 丁目に移転。
・平成 15 年 10 月、「女性・生活・実用」をテーマとする専門図書館として再開館。

1－2．寄附行為に定める目的（「寄附行為」第 3 条）

この法人は、一般文化の向上を図り公益に資するを以て目的とする。

1－3．寄附行為に定める事業内容（「寄附行為」第 4 条）

（1）お茶の水図書館の経営
（2）学術研究及び文化の向上発展並びに普及に関する施設の経営
（3）家庭に必要な諸般の講習並びに講演会開催
（4）日本文化の海外紹介及び普及
（5）その他目的を達成するために必要な事業

【註】（1）（2）に基づく、公開専門図書館としての図書館事業は、平成 15 年 10 月より再開した。また、（3）（4）に基づく文化事業として、お茶の水図書館の資料を活用した出版事業及びセミナー等の開催を実施した。

1－4．所管官庁に関する事項

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

1－5. 事業所の所在地

東京都千代田区神田駿河台二丁目 9 番地

第 2 章 事業部及び事務局の活動

2－1. お茶の水図書館の運営

お茶の水図書館は、私立の女性専用公開公共図書館から、専門図書館へ転身を図り、平成 15 年 10 月にリニューアル・オープンした。当館は、「女性・生活・実用」をテーマとする専門図書館部門と、古典籍・古文書部門から成っている。以下、部門別に事業活動の詳細を報告する。

（1）専門図書館部門

専門図書館部門の蔵書の中核は、近現代の日本の女性雑誌群である。これまで日本の図書館界では、雑誌の資料価値を低く捉えてきた傾向があり、原資料そのものを保存してこなかったという経緯がある。近年、公立公共図書館でも雑誌を収集・保存していく方針が新たに打ち出されるなど、雑誌への評価が高まっている。

当館ではこのような動きに先行して、すでに昭和 50 年代から、とくに女性雑誌の収集、保存に努めてきた。さらに、専門図書館化してからは、近現代の日本の女性雑誌のバック・ナンバーも集中的に収集している。

明治期以降の女性雑誌の発行点数は膨大であり、それらの出版状況の全容はいまだ明らかにされていない。当館は、こうした原資料を所蔵する図書館として注目されてきており、これらの女性雑誌を調査・研究する利用者を、全国各地、海外から迎えている。こうした利用を受け、当部門では、近現代の日本の女性雑誌を所蔵する専門機関として重要な役割を担うべく、さらなる収集・保存・利用提供に力を入れていく方針である。

また、当館は、戦前から現在に至る図書資料も多数所蔵している。約 2 万 7 千冊に及ぶこれらの図書資料群を基盤として、今後さらに、関連テーマの図書資料を収集し、蔵書を充実させていくことに努める。

① 資料の収集と整理業務

①-a. 雑誌の収集と整理

平成 21 年度の新刊雑誌の増加分は、和雑誌 214 タイトル・2,816 冊であった。このうち、購入分は 110 タイトル・1,664 冊、各出版社からの寄贈分は 104 タイトル・1,152 冊であった。洋雑誌は 20 タイトル・246 冊であった（洋雑誌はすべて購入分である）。

当部門では明治期以降の女性雑誌のバック・ナンバーの欠号補充を主な目的として、既刊雑誌も集中的に購入している。その数は 1 年間で 290 タイトル・2,046 冊にのぼっ

た。既刊雑誌の収集にあたっては、古書店発行の目録だけでなく、インターネットを積極的に利用している。

一方で、女性雑誌を、ファッションや化粧などの流行を反映する同時代資料として捉え、最新の出版動向に留意しながら、創刊雑誌の選書・収集にも努めた。

以上により、平成 22 年 3 月末で、当館が所蔵する雑誌の総タイトル数は、1,313 タイトル（和雑誌 1,221 タイトル、洋雑誌 92 タイトル）、総冊数 86,700 冊（和雑誌 69,000 冊、洋雑誌 17,700 冊）となった。

①-b. 図書の収集と整理業務

当部門では、「女性・生活・実用」をテーマとして、新刊書籍のほかに、実用書や社史等の古書の選書にも力を入れている。

平成 21 年度の図書の受入冊数は 395 冊である。その内訳は、購入分 306 冊、寄贈分 77 冊（主婦の友社からの寄贈 57 冊を含む）、旧蔵書から新たに受け入れた図書 12 冊であった。

以上の結果により、平成 22 年 3 月末で当館が所蔵する図書の総冊数は 27,209 冊となった。

② 閲覧業務（雑誌・図書の利用状況）

②-a. 入館者及び利用概況

平成 21 年度の入館者総数は 974 名（女性 830 名・男性 144 名）であった。これらの中には、海外からの来館者 16 名が含まれている。その内訳は、韓国から 3 名（うち 1 名は日本人）、アメリカから 5 名、ドイツから 3 名（うち 1 名はアメリカ人）、イギリスから 2 名（うち 1 名は日本人）、イタリア・ウクライナ・フランスから各 1 名である。利用目的のほとんどが、修士論文、博士論文の執筆のための調査・研究であった。

男性の数は、平成 20 年度並みの、入館者総数全体の約 15%であり、当館における「女性・生活・実用」をテーマとする男性研究者の利用が定着しつつあることがわかる。

②-b. 雑誌の館内利用

平成 21 年度の雑誌バック・ナンバーの利用件数は 2,531 件、935 タイトル・10,595 冊であった。利用が多かった雑誌バック・ナンバーの上位 20 タイトルを次ページの表にまとめた。

なお、『主婦之友』（大正 6 年創刊）のバック・ナンバーは、全冊、開架式で利用に供しているため、この表には含まれていないが、利用頻度では最上位である。

一方、『主婦之友』の付録は、他の雑誌バック・ナンバーと同様に閉架式であり、その利用状況は統計からつかむことができる。近年、同誌の付録のみの利用も着実に増えており、平成 21 年度には初めて 20 位に入った。

②-c. 複写（コピー）利用

コピーの件数は 887 件、枚数は 16,921 枚（雑誌 16,590 枚、図書 331 枚）であった。当館のコピー利用の約 7 割が学術的な調査・研究を目的としていることがわかった。これらの調査・研究テーマについては、「②-e.」で後述する。

＜平成21年度に利用が多かったタイトル（バック・ナンバー請求冊数ベスト20）＞

	タ イ ト ル	冊数	創 刊 年	備 考　（利用が多かった年代）
1	婦人画報	952	明治 38 (1905)	明治 38 年～昭和 10 年代
2	ノンノ	832	昭和 46 (1971)	昭和 46 年～現在
3	婦人公論	519	大正 5 (1916)	大正 5 年～昭和 40 年代
4	たまごクラブ	405	平成 5 (1993)	平成以降
5	婦人之友	349	明治 41 (1908)	明治 41 年～昭和 10 年代、平成以降
6	婦人倶楽部	333	大正 9 (1920)	大正 10 年代～昭和 10 年代
7	アンアン	312	昭和 45 (1970)	昭和 45 年～現在
8	Vogue America	284	(1935 年から所蔵)	1960 年代
9	婦人世界	256	明治 39 (1906)	大正時代～昭和初め
10	ベビーエイジ	240	昭和 45 (1970)	昭和 50 年代～平成初め
11	キャンキャン	239	昭和 57 (1982)	昭和 57 年～現在
12	女性自身	183	昭和 33 (1958)	昭和 30 年代～昭和 40 年代
13	Seventeen	180	(1948 年から所蔵)	1960 年代～1990 年代
14	ジェイジェイ	176	昭和 50 (1975)	昭和 50 年～現在
15	女性セブン	163	昭和 38 (1963)	昭和 30 年代、現在（最近数年分）
16	婦女界	155	明治 43 (1910)	大正時代～昭和 10 年代
17	モア	145	昭和 52 (1977)	昭和 52 年～現在
18	新女苑	141	昭和 12 (1937)	昭和 20 年代～昭和 30 年代
〃	Ladies’Home Journal	141	(1928 年から所蔵)	1960 年代～1970 年代
20	主婦の友 付録	136	大正 6 (1917)	大正 8 年～昭和 10 年代

②-d. 図書の館内利用及び館外貸出

平成 21 年度の館外貸出の登録者は 42 名、登録者数の累計は 352 名となった。貸出人数 60 名、貸出冊数は 174 冊であった。

前年度と同様に、平成 21 年度は、雑誌と図書を併用した調査が顕著であった。特定の雑誌（タイトル・月号）を目指して来館した研究者に対し、同時代の他の雑誌や図書を紹介することによって、研究者の調査対象が広がり、新たな利用につながるケースが

多い。
　また、雑誌を調査する過程で、それらの時代背景や出版状況をつかむために、出版関連の社史、女性雑誌の研究書を利用するケースが目立った。
　以上の利用状況を次ページにまとめた。

＜平成21年度　利用状況＞

件　　名	総　　数	利　用　規　程
入 館 者 数	974 名　（女性：830 名） （男性：144 名）	入館料：1 回 300 円（税込み）
複 写 枚 数	16,921 枚（モノクロ：15,319 枚） （カラー　：1,602 枚）	料金：モノクロ 50 円（税込み） カラー　120 円（税込み）
雑誌バック・ナンバー出納	件　　数：2,531 件 冊　　数：10,595 冊 タイトル 数：935 タイトル	1 回の出納冊数：12 冊以内 （1 日の回数制限なし）
図書資料貸出	登 録 者 数：42 名（累計 352 名） 総　　数：174 冊 人　　数：60 名	登録：無料 期間：5 日間（継続可） 冊数：5 冊まで

②-e. 調査・研究テーマ

　平成 20 年度と同様に、複写サービスを受けた利用者の約 7 割が学術的な調査・研究を理由とし、このうちの半数以上が「論文執筆」を目的としている。
　女性雑誌が扱うテーマ・内容そのものが多岐にわたっていることに関連して、利用者の調査・研究テーマも広範囲に及んでいる。また、『アンアン』『ノンノ』などに代表される昭和期後半以降の雑誌が論文執筆のための調査対象となることも定着しつつある。
　主な調査・研究テーマを、「卒業論文」「修士論文」「博士論文」「海外研究者の論文」「『主婦の友』を対象とした調査・研究」の順で、以下に紹介する。

＜卒業論文テーマ＞

　女性ファッション誌における付録の宣伝効果／大正期の『主婦之友』に見られる外国人像／メディアによって構築されるアジア系アメリカ人女性のステレオタイプとその影響／化粧品広告におけるジェンダー／若い女性層の社会現象としての“デコレーション”／眉の変化で見る女性の意識の変化／化粧から見る関西文化／明治期における洋食文化の広まり／日本における誕生日ケーキの起源と意義／戦時下における女性の戦争協力／料理本に見る主婦像の変遷／近代日本における家族・家庭の変容／胎動と胎教

＜修士論文テーマ＞

　生理用品広告に現れる女性性の表象／20 世紀初頭における文化的表象としての「髪」：ギャルソンヌからモダンガールへ／戦後 40 年の住宅イメージの形成／鈴木信太郎（画家）旧居の建築／「女子高生」のイメージ形成／リゾートウェデイング市場の成立と展開／母子の密着性／三浦綾子（作家）研究／近代女性と音楽／大正・昭和期のブラジル女性移民

＜博士論文テーマ＞

近代の化粧文化／戦後における住空間の表象／戦前の通販／食をめぐるネットワーク／澁澤龍彦が形成した文化圏をジェンダー・セクシュアリティの視点から解明する／近代日本における性教育／戦時期の疎開の実態／川崎長太郎（作家）の作品調査／獅子文六（作家）と『主婦之友』

＜海外研究者の論文テーマ＞

日本と韓国の女性雑誌の比較（韓国）／雑誌口絵に見る美人像（アメリカ）／女性文学者（吉屋信子・林芙美子・山川菊栄）の戦時ルポルタージュ（イタリア）／広告における女性のイメージ（ウクライナ）／戦前期女性雑誌におけるスポーツ・エクササイズ関連記事の分析（イギリス）／『主婦の友』にみる日本女性のイメージ（フランス）／近代における日本と韓国の家族（韓国）／近代日本の恋愛史（アメリカ）／日本における低用量ピル（ドイツ）／日本の女性雑誌における女性の加齢身体（Ageing body）の表象（イギリス）／1950 年代の日米文化史（アメリカ）

＜『主婦の友』を対象とした調査・研究＞（前項の調査・研究テーマで記載済みのものを除く）

大衆雑誌の表現史／占領期と 4 大女性雑誌（『主婦之友』『婦人倶楽部』『婦人公論』『婦人之友』）／雑誌における連載小説の意味／編物技術の伝授における婦人雑誌の役割／『主婦之友』が戦前に公募した戦意高揚歌／浴衣の柄を中心とする日本服飾史／大正期以降の風呂／コーヒー飲用施設（食堂、レストラン、ミルクホール等）と女性の社会進出／大正期における職業としての女中／大正から昭和初期の産児制限と避妊具／昭和戦前期の妊娠・出産・乳幼児の子育て／川上澄生（版画家）作品の制作年特定の傍証／森茉莉全集の未収録作品の調査／関東大震災の研究

③ レファレンス（相談・参考）業務

平成 21 年度も、利用者と積極的なコミュニケーションを図り、レファレンス業務を遂行した。当館には、すでに研究テーマを持ち、他機関での調査を済ませてから来館する利用者が多くみられる。こうした利用者から質問や相談を受け、当館では所蔵資料や関連情報を紹介・回答している。こうした業務が、利用者には未知の資料や新たな情報の発見となり、研究テーマの広がりや絞り込みにもつながっている。

年間のレファレンス件数は 68 件である。テーマ別に見ると、「雑誌・出版・広告」28 件、「服飾文化・ファッション・美容」14 件、「住まい・暮らし」5 件、「料理・食文化」6 件、「女性・家族」5 件、「人物研究」2 件、「その他」8 件であった。

以下に、主だったレファレンスのテーマを紹介する（前項の「②-e. 調査・研究テーマ」と重複するものは外した）。

③-a. 雑誌・出版・広告

1910～1930 年代の韓国における『主婦之友』の販売状況を示す記録（情報）の有無／昭和 4 年の『主婦之友』発行部数と読者アンケート調査の有無／中原淳一の挿絵を掲載した『主婦之友』の巻号数／藤田嗣治の 1930-1940 年代の雑誌挿絵・表紙絵／女性雑誌付録の嚆矢／女性雑誌の化粧品広告における表現の変遷／昭和 10 年代における

「花嫁となる人」の読書傾向／占領期における海外向け雑誌（海外版）の記事に対する検閲事例

③-b. 服飾文化・ファッション・美容

大正期『主婦之友』『婦人画報』における女子の服装の比較調査／近代以降の和服の衰退／『主婦之友』が大正末から昭和初期にかけて募集した浴衣と銘仙の図案の柄／戦前（1930 年代）の戦争柄着物の利用実態／昭和 7、8 年の日本におけるドロシー・エドガース（戦前は新聞編集記者、戦後は GHQ 繊維課長として日本で活躍）が演出したファッションショーの記事の存在／戦前のウインタースポーツ・ファッションに関する資料／花嫁の角隠しの形／パイナップル編みに関する資料

③-c. 住まい・暮らし

戦後から高度経済成長期（特に昭和 30 年代）の家計簿の使用実例／裁縫箱が大正期の嫁入り道具のひとつであったことの実証／昭和 10 年前後の女中に関する記事／創業期（昭和 6 年創業）の目黒雅叙園の状況と当時の結婚式場に関する調査

③-d. 料理・食文化

大正期以降の婦人雑誌と料理専門誌にみる子どもの食事・弁当の歴史／明治・大正期における洋食文化の広がり／1950～1970 年代に『主婦之友』で流行していた料理／「家庭用のコーヒーの入れ方」が雑誌に掲載されはじめた時期

③-e. 女性・家族

任意後見制度／更年期障害／子宮がん・性感染症

③-f. 人物研究

大澤豊子（『時事新報』記者、東京中央放送局主事）に関する資料／井出ひろ（女性医学博士）の戦前の活動に関する資料

③-g. その他

女学校の“作法室”に関する資料／母親が全国写真美人コンクールで 1 位を受賞したときの記事／成簀堂文庫所蔵「医心方」の来歴／戦前から現代までの御茶ノ水近辺の歴史資料／W・ヴォーリズ設計の主婦之友社旧社屋の設計図案

④ 研究者・研究機関等からの寄贈

平成 21 年度は、当館における調査・研究の成果をまとめた論文・出版物の寄贈が、以下のとおり 4 件あった。

・群馬県立土屋文明記念文学館第 68 回企画展「夢みる女性誌：明治から昭和 30 年代までの女性誌の変遷、女性の生き方」展示会図録（2010 年刊）

・研究課題報告「メディアがもたらす女性の意識変化の研究―戦後女性雑誌の送り手・

受け手分析」（2004 年刊）（著者はお茶の水女子大学文教育学部教授）
・論文「大澤豊子：女性新聞記者の草分け」（慶應義塾大学経済学部名誉教授の研究会 OBG 会『創世』第 37 号［2009 年］に収載）
・「食卓と家族：家族団らんの歴史的変遷」（世界思想社、2010 年刊）（著者は京都女子大学発達教育学部教授）

この他のおもな寄贈は以下のとおりである。

・『主婦之友』昭和 9 年 1 月号付録
・論文「『いちご新聞』にみる＜ハローキティ＞像の変遷」（『関西国際大学研究紀要』第 10 号［2009 年］に収載）
・「深川図書館 100 年のあゆみ」（江東区教育委員会、2009 年刊）
・『中国女性史研究』第 19 号（中国女性史研究会、2010 年刊）

⑤ 資料保存対策

当館では、「現在と未来の利用を保証する」という使命のもとで、全館的な「利用のための資料保存」対策を実施し、書庫の温湿度管理など、保存環境の整備に努めているほか、平成 21 年度は以下の作業を実施した。

⑤-a. 雑誌のドライクリーニング（ちり・ホコリ除去）

女性雑誌の集中購入によって新たに受け入れる既刊雑誌を対象に、それらの表紙・小口のちりホコリを拭き取る作業（ドライクリーニング）を、日常業務の一環として実施した。その数は年間で 5,229 冊であった。

⑤-b. 女性雑誌を対象とする、劣化した針金の除去と綴じ直し

針金綴じ製本された女性雑誌のバック・ナンバー（7 タイトル・2,125 冊）を対象として、劣化した針金の除去と綴じ直し作業を専門業者に依頼した。

⑤-c. 図書の修理

資料の状態と利用頻度を勘案しながら、劣化・破損した図書・雑誌約 20 冊を対象に、日常業務の中で適切な修理を施した。

（2）古典籍・古文書部門

当館の活動のもう一つの大きな柱となる古典籍・古文書部門では、約 7 万点冊の成簀堂（せいきどう）文庫と、約 660 タイトル（約 2,000 点冊）の竹柏園（ちくはくえん）本の資料群を所蔵している。これらの資料群は、当館の創設時に設立者・石川武美が購入したものである。成簀堂文庫は、ジャーナリスト・言論家であった徳富蘇峰が、明治から昭和戦前にかけて収集した個人コレクションである。一方の竹柏園本は、国文学者の佐佐木信綱が所蔵していた万葉集関連の貴重書である。

① 整理業務

平成 21 年度も各種のデータベース作成・入力作業を継続して行ない、271 件の閲覧資料データ（累計 1,796 件）、60 件の寄贈資料データ（累計 576 件）を入力した。

なお、従来から行なってきた、『新修成簀堂文庫善本書目』未収載の古典籍資料の書誌データ入力は、すでに平成 20 年度をもって終了し、その総計は約 5,900 件である。

② 閲覧業務

平成 21 年度の閲覧者数は 47 名（延べ人数 69 名）、閲覧資料点数は 132 点（延べ点数 149 点）であった。

②-a. 閲覧者の内訳

閲覧者の内訳は以下のとおりである。

・教職者：12 名（延べ人数 17 名）（うち中国人 1 名）
・学生：10 名（延べ人数 10 名）
・国公立・私立機関の研究員等：17 名（延べ人数 22 名）（うち中国人 1 名）
・一般研究者：8 名（延べ人数 20 名）

②-b. 閲覧資料点数の内訳

閲覧資料 132 点（延べ点数 149 点）の内訳を記す（実数と延べ点数が同じ場合は実数のみ表記）。

＜成簀堂文庫＞ 117 点（延べ 125 点）
□古典籍 33 点（延べ 36 点）
●『新修成簀堂文庫善本書目』収載分 19 点（延べ 20 点）
古写本（奈良から江戸）4 点（延べ 5 点） ／ 古活字版 2 点 ／ 江戸初期版本 4 点 ／ 自筆本 1 点 ／ 唐本（宋・明版）6 点 ／ 小笠原本 2 点
●『新修成簀堂文庫善本書目』未収載分 14 点（延べ 16 点）
近世写本 7 点 ／ 近世版本 7 点（延べ 9 点）
□古文書　83 点（延べ 88 点）
●東大寺文書・武家文書等　77 点（延べ 82 点）
●大乗院文書・その他　6 点（延べ 6 点）
□覆製本 1 点
＜竹柏園本＞ 15 点（延べ 24 点）

②-c. 閲覧資料名及び目的

閲覧資料名と閲覧目的の一部を以下に記す。

＜成簀堂文庫＞
□古典籍
●『新修成簀堂文庫善本書目』収載分

【古写本（奈良から江戸）】

・『古文尚書（巻三・四）』（1 冊、永正 10 年写）『光明眞言土沙勸信別記』（1 帖、寛喜 3 年写）：日本漢字音の歴史的研究

・『論語義疏』（5 冊、宝徳 3 年写）：論語義疏鈔本の研究

【古版本（五山版）・江戸初期版本】

・『三十六歌仙』（1 冊、慶長頃刊）：江戸時代の三十六歌仙の研究

【古活字版・近世版本（寛永版ほか）】

・『賀茂の御本地』（3 冊、明暦・万治頃刊）：お伽草子研究

・『古今韻會擧要』（9 冊、慶長 15 年刊）『古今韻會擧要』（15 冊、慶長 15 年刊）：日本漢籍の本文形成に関する研究

【自筆本】

・『琉球状』（1 冊、江戸頃写・天保 3 年刊本合綴）：琉球の茶文化についての調査

【唐本（宋版・元版・明版）】

・『新編京本贏虫録』（2 冊、明嘉靖 29 年刊）：明代中国人の日本認識の研究

・『新雕入篆説文正字』（1 冊、北宋頃刊）・『重刊古尊宿語録』（22 冊、宋刊）等：宋版字様の変化と地方性の研究（2 名での共同閲覧）

【小笠原本】

・『旗之事 幕之事』（1 冊、江戸初期写）『軍陣書 籏之書 幕之書 兵具之部』（5 冊、江戸中期写）：甲冑武具の研究

●『新修成簀堂文庫善本書目』未収載分

【近世写本】

・『隈本政事録』（1 冊、文化 2 年写）：近世中期政治思想の研究（2 名での共同閲覧）

・『東寶記』（2 冊、正徳 4 年写）：科学研究費課題「東寺における歴史編纂過程解明のための書誌学的研究」

【近世版本】

・『伊勢物語男百首 女百首』（2 冊、寛政頃刊・かるた附属）：諸本対照及びかるたとの影響関係の調査

・『論語徴』（10 冊、元文 2 年刊）：太宰春台の校訂への関わりを調査（卒業論文執筆のため）

□古文書（閲覧目的別に記す）

●東大寺文書を対象とする科学的分析による紙質調査

・『東大寺燈油納所返抄』（1 通、長保 2 年写）・『紀國末大池中谷賣券』（1 通、応保 2 年写）等、平安中期～室町末期の同文書 30 点 30 通。顕微鏡等の調査器材を持ち込んだ、2 名での共同閲覧。

●東大寺文書・武家文書等を主たる対象とする三重県史編さんのためのグループ調査

・『田券紛失状』（1 通、治承 4 年写［東大寺文書］）・『中山慶親御教書』（1 通、天正 13 年写［荒木田文書］）・『豊臣秀吉朱印状』（1 通、天正 19 年写［生駒文書］）・『伊勢大神宮祭主下文』（1 通、永正 16 年写［渡會文書］）等、平安末期～江戸初期の古文書類 39 点 86 通。

●松江歴史館（平成 22 年 3 月開館予定）特別展準備のための、堀尾氏（江戸初期の松江藩主）に関する調査

・『堀尾帯刀宛替地知行目録』（1 通、天正 18 年写）・『遠江国蔵入目録』（1 通、慶長 4 年写）等の、室町末期～江戸初期の古文書 7 点 7 通。松江市役所所属の 2 名による閲覧。

●中世東国領主の起請文、特に牛王法印の図様や書札礼等に関する研究

・『大掾忠幹起請文』（1 通、室町中期写）・『瑞雲院周興起請文』（1 通、永禄 2 年写）等の真壁文書 4 点 4 通。

●大乗院文書を対象とする中世興福寺史の研究（2 名での共同閲覧）

・『類聚世要抄』（20 軸、鎌倉末期写［のうち、巻四・十四・十七・十八・十九本・十九末］）・『簡要類聚抄巻三』（1 軸、弘安 5 年写）

□覆製本

・『養和元年記（1 巻、養和元年写）』覆製本（主婦の友社発行、昭和 60 年刊）：鎌倉時代の仏師・康慶の出自の確認調査

＜竹柏園本＞

・『西本願寺本萬葉集』（20 帖、鎌倉末期写［のうち巻十一・十二・十三・十八・十九］）『萬葉集春日本切巻六巻尾』（1 葉、鎌倉中期写）『萬葉集後京極様切（春霞）』（1 葉、鎌倉頃写）ほか：万葉集の装丁及び伝本研究

・『萬葉摘草』（1 冊、文化 13 年写）・『萬葉新採百首』（1 冊、弘化 2 年写）・『萬葉集種々考』（1 冊、昭和初期写）ほか：万葉集解説書・研究書の諸本調査

・『菁華抄（巻第三）』（1 帖、鎌倉頃写［複製本及び原本］）：日本漢文学研究

③ 目録編纂のための調査

成簣堂文庫が所蔵する古典籍資料の目録編纂を目的として、平成 21 年度も引き続き、柳田征司先生（前奈良大学文学部教授、（財）阪本龍門文庫理事、当財団理事）に調査を依頼した。

平成 20 年度と同様に故川瀬一馬先生の調査カードの記述と原本の確認作業を行なった。平成 21 年度の調査点数は 3,450 点（月平均 288 点）であった。調査開始（2007 年 8 月）以降の調査済み総点数は約 8,420 点になり、調査対象のほぼ 100％を終了している。調査対象の内訳は、「国書」7,010 点（近世写本 1,600 点、近世版本 3,050 点、寛永整版 300 点、木活字版 290 点、近代写本 370 点、近代刊本 1,400 点）、「唐本」955 点、「朝鮮本」340 点、「その他」（古文書・拓本・覆製本等）115 点である。

調査後の訂正データの入力作業を、職員が平成 20 年 6 月から開始し、平成 21 年度末で、「国書」のうち「近世写本」「近世版本」約 4,650 点の入力が済んでいる。

④ 写真掲載・翻刻掲載・放映への協力

古典籍・古文書の写真掲載・翻刻掲載・放映に関する 22 件（成簣堂文庫資料 9 件、竹柏園本資料 13 件）の申請を受け、それぞれの出版・展示事業等に協力した。その内訳は、写真掲載 15 件（成簣堂文庫 7 件・竹柏園本 8 件）、翻刻掲載 6 件（成簣堂文庫 2

件・竹柏園本 4 件)、放映 1 件（竹柏園本）であった。
　使用目的は、書籍、雑誌、新聞、論文集、博士論文、学会配布資料への掲載や、展示パネル作製、テレビ番組の制作などであった。

④-a. 写真掲載

＜成簣堂文庫＞

『信長・義昭　五か条の条書』(永禄十三年正月廿三日付）4 件、『矢矧』(延宝頃刊)、『賢哲起請文（真壁文書)』（天正十四年三月十二日付)、『武田勝頼感状（小浜文書)』（天正九年卯月七日付）など、合計 7 件（朝日新聞出版、角川学芸出版、講談社、奈良日日新聞社、森話社、沼津市教育委員会、日本古文書学会［学会配布資料］）

＜竹柏園本＞

『西本願寺本萬葉集』5 件、『元暦校本萬葉集影写附属文書』、『萬葉集後京極様切（春霞)』など、合計 8 件（滋賀県蒲生郡日野町教育委員会、長野県下伊那郡阿智村役場、朝倉書店、京都ノートルダム女子大学、早稲田大学日本古典籍研究所など）

④-b. 翻刻掲載（全文ではなく一部翻刻のみ）

＜成簣堂文庫＞

『天保九年覺（忠邦自誌)』、『堀尾文書』の 2 件（近代文芸社、「松江市史研究 1 号」）

＜竹柏園本＞

『萬葉集伝解脱上人切』・『元暦校本萬葉集影写附属文書』・『萬葉集秘訣』など、合計 4 件（「汲古」「温故叢誌」「和歌文学研究」の逐次刊行物、奈良女子大学学術情報リポジトリ）

④-c. 放映

＜竹柏園本＞

『西本願寺本萬葉集 巻第十六』収載の一首 1 件（日本テレビ放送）

⑤ 研究者・研究機関等からの寄贈

平成 21 年度に受領した寄贈資料は 60 点である。このうち、当館が所蔵する古典籍・古文書を調査・研究した成果をまとめた出版物、論文等の寄贈資料のほか、関係者・関係機関から寄贈を受けた資料の一部を、以下に記す（出版物の刊年はすべて 2009 年)。

・『日本のことばと文化：日本と中国の日本文化研究の接点：横山邦治先生叙勲ならびに喜寿記念論文集』（淡水社）
・『法学研究 第 82 巻第 4 号』（「第一次世界大戦期の徳富蘇峰とアメリカ:1914－1918」を収載）（慶應義塾大学法学研究会）
・『汲古 第 55 号』（「古筆切から見た万葉集片仮名訓本：伝解脱上人筆切の場合」を収載）（汲古書院）
・『早稲田大学日本古典籍研究所年報 第 2 号』（「柘枝切万葉集考：片仮名訓本として

の性格」を収載）（早稲田大学プロジェクト研究所日本古典籍研究所）
・『栃木県立文書館研究紀要 第 13 号』（「戦国期佐竹氏の起請文に関する基礎的考察」を収載）（栃木県立文書館）
・『和歌文学研究　第 98 号』（「北村季吟『万葉集秘訣』の意義」を収載）（和歌文学会）
・『織田信長という歴史：「信長記」の彼方へ』（勉誠出版）
・『愛知県史　資料編 7：古代 2』『愛知県史　資料編 10：中世 3』（愛知県史編さん室）
・『奈良日日新聞 2009 年 9 月 23 日』（「戦国のキーマン鬼公方足利義昭 13」を収載）
・慶應義塾大学大学院文学研究科史学専攻日本史学平成 19 年度修士論文「歴史編纂をめぐる水戸藩学者の思想的対立：明治政府修史館出仕者の事例によせて」

⑥ 資料保存対策

当館では全館的に「利用のための資料保存」対策を講じているが、当部門における平成 21 年度の具体策は、以下のとおりである。

⑥-a. 貴重書庫の温湿度管理

貴重書庫は外気の影響を受けにくい仕様で造られているが、書庫内の温湿度の実際の変動幅を、1 日・1 週間・1 年単位で継続して調査した。さらに、時間帯や季節により、試験的に空調を稼動させ、温湿度の変動の幅をどれくらい制御できるかを、平成 21 年度に引き続き、調査した。

⑥-b. 保存手当て

破損の激しい資料を保存用封筒に入れる等の保存手当てを日常業務の中で行なった。

⑥-c. 閲覧時の資料の適切な取り扱い

長尺の巻子本や、劣化・破損した資料の閲覧の際には、職員が資料の取り扱いを補助しながら、適切な取り扱いについて閲覧者へ説明した。

（3）職員研修及び教育

① 研究会、講演会、見学会への参加

＜平成 21 年＞

・6 月：専門図書館協議会（以下、専図協）関東地区協議会総会･講演会に参加
　　：文化講演会参考のため佐藤初女氏講演会に参加
・7 月：東京国立博物館「染付」内覧会に参加
　　：専図協ワーキンググループ会議に参加
　　：保存箱作製を依頼した(有)資料保存器材の見学
　　：文化講演会参考のため日本近代文学館主催文学講座に参加
・8 月：京都下鴨古書市、京都市内古書店での雑誌の購入及び市場調査
・9 月：サントリー美術館展覧会「美しの和紙」内覧会に参加

：専図協主催「都立多摩図書館（東京マガジンバンク）」見学会に参加
・10 月：文部科学省「これからの図書館の在り方協議会協力者会議」私立図書館ヒアリング傍聴
：文祥堂 JOPDESK 事務用品フェアに参加

＜平成 22 年＞

・1 月：専図協関東地区協議会主催の研修会に参加
・2 月：千代田区主催ビル管理衛生講習会に参加
・3 月：東京大学消防防災科学技術公開セミナーに参加

② 専門分野教育

当館には近現代の資料（雑誌・図書）、古典籍・古文書のほかに、美術資料や博物館的資料も数多く所蔵している。こうした資料の整理、提供、保存に携わるために、それぞれの資料に関する、より高度な専門的知識と技術を習得するように努めた。

2－2. 文化事業の実施

（1）第6回成簀堂文庫セミナーの開催

澤田次郎先生（拓殖大学政経学部教授）を講師に迎え、平成 22 年 2 月 27 日、当財団にて第 6 回セミナー（演題：「徳富蘇峰の見たイギリス」）を開催した。澤田先生の専門は近代日本政治思想史である。先生は、すでに長期間にわたり、成簀堂文庫の洋書を対象に、徳富蘇峰の読書の跡（書き込み等）を精査し、蘇峰の思想形成を辿る研究を進めている。今回のセミナーでは、平成 20 年度に続き、その成果を発表していただいた。全国から蘇峰研究者ら 20 名が参加し、画期的な催事となった。関連テーマの展示の展覧や質疑応答の時間を設け、参加者の活発な交流を図ることができた。

（2）お茶の水図書館文化講演会の開催

松井今朝子先生（作家）を講師に迎え、平成 22 年 1 月 23 日、池坊お茶の水学院講堂にて文化講演会（演題：「語りと文芸――円朝をめぐって」）を開催した。日本の近代小説の文体についてご講演いただいた後、質疑応答の時間を設けた。広報は、当館ホームページのほか、新聞等で広く一般に公募し、当日は、190 名の参加者が集まり、好評を博した。

（3）「カラー復刻『主婦之友』昭和期目次Ⅲ」の出版

当館は、雑誌『主婦之友』の創刊（大正 6 年）から昭和 20 年までの目次をカラー復刻し、「大正期総目次」「昭和期目次Ⅰ・Ⅱ」として、平成 18 年から 21 年にかけて刊行した。平成 21 年度は、その続編として「昭和期目次Ⅲ」（昭和 21～30 年分を収載）を出版した。

これらの目次は、当時の家庭生活や社会情勢を知る上での貴重な情報源であり、当館所蔵の『主婦之友』の利用の活性化にもつながるものである。

（4） 美術資料（原画・挿絵・原稿・写真等）の貸出協力

＜「小袖　江戸のオートクチュール」展へ岡田三郎助作品「婦人像」を貸出＞

大阪市立美術館（平成 21 年 4 月 14 日～5 月 31 日開催）で行なわれた巡回展「小袖：江戸のオートクチュール：初公開　松坂屋京都染織参考館の名品」展に当館が所蔵する岡田三郎助の油彩作品「婦人像」を貸出した（平成 21 年 4 月。返却は 6 月）。

＊同展は、昨年（平成 20 年）4 月以降、名古屋市博物館、サントリー美術館と続く、巡回展の最終展示会である（主催は上記 3 館のほか、松坂屋京都染織参考館、日本経済新聞社）。

＜小学館へ「坂の上の雲」挿絵画像データを貸出＞

同社刊行の雑誌『サライ』平成 21 年 12 月号“特集「坂の上の雲」”に当館が所蔵する下高原健二画「坂の上の雲」の挿絵画像データを貸出した（平成 21 年 10 月）。

＜松山市　坂の上の雲ミュージアムへ「坂の上の雲」挿絵画像データを貸出＞

同ミュージアムの企画展「新聞『日本』と子規」（平成 22 年 3 月 2 日～平成 22 年 2 月末開催）の展示パネル及び広報媒体等に、当館が所蔵する下高原健二画「坂の上の雲」の挿絵画像データを貸出した（平成 22 年 1 月）。

＜松山市へ「坂の上の雲」挿絵画像データを貸出＞

同市役所総合政策部へ市内の三津浜に設置する「坂の上の雲」ゆかりの地案内板（「三津浜」）に当館所蔵の挿絵画像データを貸出した（平成 22 年 2 月）。

2－3. 事務局の活動

（1）広報活動

① ホームページでの広報

当財団は平成 15 年 10 月の図書館リニューアル・オープンに合わせてホームページを開設した。平成 21 年度も、このホームページの情報を更新し、広報活動を積極的に行なった。

財団の設立趣旨、事業概要の説明のほかに、図書館の広報として、専門図書館部門では、利用案内、和洋雑誌所蔵リスト、テーマ別蔵書、資料保存関連リンク集を紹介した。また、古典籍・古文書部門では、利用案内、成簀堂文庫・竹柏園本の概要、冊子体所蔵目録などを紹介した。

② 当館見学会の実施

＜平成 21 年＞

・12 月：専門図書館協議会私立図書館小委員会委員 5 名。（文部科学省「私立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」案策定作業の一環として当館を見学）

＜平成 22 年＞

・1 月：東京都立多摩図書館（東京マガジンバンク）館長ほか計 2 名。（当館雑誌の

所蔵状況等を見学）

・3 月：財団法人東京都公園協会公益・水辺事業部 2 名。（私立図書館開設を目的として、運営時の課題等を含めて当館を見学）

③ 図書館協力

当館は、単館での活動にとどまらず、図書館界においても、広くその役割を果たした。

③-a. 専門図書館協議会広報委員会の委員に就任

広報委員会の正式委員として当館司書 2 名が就任した。平成 21 年度は、インターネット版「メールマガジン・SENTOKYO」上で「図書館・出版」に関する新刊案内などの編集作業を行ない、会員に提供した（毎月 2 回）。合わせて、専門図書館協議会定期総会の開催にあたり、運営協力を行なった。

③-b. 日本図書館協会及び専門図書館協議会の役員に就任

専門図書館部会の代表として、当財団職員が、日本図書館協会理事と、専門図書館協議会役員に就任した。

③-c. 文部科学省から私立図書館の代表館としてヒアリングを受ける

図書館法改正に伴い、私立図書館を含めた新たな「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」を文部科学省が作成するにあたり、当館が私立図書館の代表の 1 館として、同省からその活動についてのヒアリングを受けた。

③-d. 私立図書館小委員会委員長に就任

当財団職員が、専門図書館協議会に新設された「私立図書館小委員会」の委員長を務め、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の具体案を検討し、意見書をまとめ、12 月に文部科学省に提出した。

（2）その他の館外活動

＜当館が専門図書館協議会から表彰される＞

平成 21 年 6 月 15 日、東京商工会議所で開催された、平成 21 年度専門図書館協議会総会において、当館の 60 余年にわたる図書館活動が認められ、「団体功労賞」を受賞した。

＜外部出版物への寄稿＞

専門図書館協議会からの依頼に応え、同協議会機関誌『専門図書館』（235 号、平成 21 年 5 月号「特集：図書館のミッションステートメントを考える」）に当財団職員が「専門図書館のミッションとその実践：お茶の水図書館の事例」を寄稿した。

国立国会図書館からの依頼に応え、同館情報誌『びぶろすーBiblos』（電子化 45 号、平成 21 年夏号）に当館司書が「お茶の水図書館：未来へつなぐ女性雑誌」を寄稿した。

＜外部出版物が当館を紹介＞

文部科学省総合情報誌『文部科学時報』（1603 号、平成 21 年 8 月号）の私立図書館紹介欄「Private の学習環境」に、当館の紹介記事が掲載された。

（3）管財部門の業務

当財団では、歴史的にも文化的にも貴重な資料を数多く所蔵しているため、当財団ビルの建物・設備等の維持管理には細心の注意を払っている。平成 21 年度は、移転時に修繕できなかった箇所を整備したほか、年間スケジュールに沿って、エレベータ部品の交換、ビル壁面の換気口の修理のほか、点検・メンテナンス作業を実施した。

また、所有ビルの劣化状況と修繕状況の調査結果を踏まえ、ビル前の駐車場の一部を、平成 20 年度に続き、修繕工事を実施した。

（4）資産運用委員会の活動

資産運用委員会では、当財団の基本財産並びに運用財産の適正な運用を目的として、検討を続けている。平成 21 年度は、混迷する国内外の政治・経済状況を見据えながら、動向を見守る 1 年となった。今後数年のあいだは、法人移行のために、資金は安定させたうえで、運用基盤を固めていく方針である。

（5）公益法人制度改革に伴う移行手続きの準備

公益法人制度改革法の施行に伴い、平成 21 年度は、平成 20 年度から継続して、専門家とプロジェクトを組み、公益財団法人及び一般財団法人への移行の可能性について、検討を続けてきた。当財団の進むべき方向性について、具体的な検討課題の洗い出しを終了した。

2－4. 役員会等に関する事項

（1） 理事会に関する事項

開催月日	回　数	議　事　事　項	会議の結果
H21.6.20	第 152 回	（第 1 号議案）平成 20 年度事業報告承認の件 （第 2 号議案）平成 20 年度財務諸表及び収支計算書承認の件 （第 3 号議案）理事・監事・評議員改選の件	可　決 可　決 可　決
H22.3.20	第 153 回	（第 1 号議案）平成 22 年度事業計画承認の件 （第 2 号議案）平成 22 年度収支予算承認の件	可　決 可　決

（2）　評議員会に関する事項

開催月日	回　数	議　事　事　項	会議の結果
H21.6.20	第129回	（第1号議案）平成20 年度事業報告承認の件 （第2号議案）平成20年度財務諸表及び収支計算書承認の件 （第3号議案）理事・監事・評議員改選の件	可　　決 可　　決 可　　決
H22.3.20	第130回	（第1号議案）平成22年度事業計画承認の件 （第2号議案）平成22年度収支予算承認の件	可　　決 可　　決